

イスラエル

State of Israel

	2010年	2011年	2012年
①人口:800万人(2013年4月)			
②面積:2万2,072km ²			
③1人当たりGDP:3万1,296米ドル (2012年)			
④実質GDP成長率(%)	4.8	4.6	3.2
⑤消費者物価上昇率(%)	2.7	2.2	1.6
⑥失業率(%)	6.6	5.6	6.9
⑦貿易収支(100万米ドル)	△ 7,826	△ 14,615	△ 18,252
⑧経常収支(100万米ドル)	8,108	3,384	△ 199
⑨外貨準備高(100万米ドル, 期末値)	70,907	74,874	75,908
⑩対外債務残高(グロス)(100万米ドル, 期末値)	106,526	103,583	93,563
⑪為替レート(1米ドルにつき, シェケル, 期中平均)	3.74	3.58	3.86

〔注〕②:ヨルダン川西岸・ガザ地区を除き,ゴラン高原,東エルサレムを含む。③は推計値。
〔出所〕①②④~⑦:イスラエル中央統計局(CBS),③⑨⑩:IMF,⑧⑪:イスラエル中央銀行

2012年は内外需とも低調

2012年のイスラエルの実質GDP成長率は3.2%となり、2年連続で4%台だった2010年、11年から伸び率は減速した。民間最終消費支出は前年比2.7%増と2年連続で減速、国内総固定資本形成は4.0%増と、前年の16.0%増から大きく低下した。民間最終消費支出の内訳をみると、食品・飲料・たばこは3.5%増だったが、家庭用品(2.7%減)を含む耐久消費財が3.9%減少した。また国際収支ベースの輸出は世界的な需要減の中、前年の5.5%増から0.1%増とほぼ横ばいとなり、内外需ともに厳しい1年となった。

エジプトでのムバラク政権崩壊(2011年)による政情不安定化でイスラエルへ通じるシナイ半島の天然ガスパイプラインが爆破され、天然ガスの輸入が停止した。代替に発電用燃料油の輸入が増加したことが純輸出を減少させ、GDPを押し下げる一因となった。しかし、発電用燃料の不足は国内の新たなガス田の開発により早々に解決される見通しだ。2013年3月30日から生産が始まったイスラエル北西沖のタマル・ガス田の開発で、発電用燃料の自給が期待されるほか、現地の主要経済紙は、ロシアや韓国など、外国企業を含む6社が320億ドル相当の天然ガス購入契約をしたと報じた。さらに、隣接して確認されたリバ

イアサン・ガス田の開発も進められている。

政治面では、2013年1月に実施された総選挙の結果を受け、ネタニヤフ首相が3月に新連立政権を発足させた。中道・右派の新政権はパレスチナ和平、イラン核開発問題に対して引き続き強硬姿勢を示しているため、その動向と域内への影響が注目される。

新興国市場の開拓を進める

イスラエル中央統計局(CBS)によると、2012年の貿易は、輸出が前年比6.9%減の631億4,530万ドル、輸入が0.6%減の731億2,140万ドルで、貿易赤字が99億7,610万ドルとなり、赤字幅は前年の57億3,430万ドルから74.0%拡大した。

2012年の輸出を品目別にみると、主要品目の化学品・同製品が9.4%減、ダイヤモンド(研磨済み)が13.8%減、通信・光学・医療・精密機器も3.3%減といずれも減少した。輸入は燃料・潤滑油が17.9%増、機械・電子産業向け原材料が8.5%増の一方、機械・機器は5.0%減、家具・家電製品が16.0%減だった。機械・機器の輸入減についてイスラエル中央銀行は、2011年にインテル(米国)の半導体工場設立や、イスラエル北部にある製油所内の工事の終了に伴う特殊機械・機器の輸入などの需要減少によるものだと説明している。

国・地域別では、2012年の輸出全体の約6割を占める米国、EU向けがそれぞれ9.4%減、8.5%減だった。輸入は米国が7.9%増、EUは1.2%減だった。主要国への輸出は減少したが、中南米やアジアの新興国への輸出は伸びた。対中南米輸出は4.9%増の21億9,220万ドルを記録。このうち11億4,170万ドルはブラジル向けで、27.9%増。内訳をみると、有機硫黄化合物

表1 イスラエル主要経済指標

	2011年	2012年	2012年				2013年
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質GDP成長率	4.6	3.2	2.9	2.6	2.8	2.6	2.7
民間最終消費支出	3.8	2.7	5.8	2.4	1.4	1.9	5.0
政府最終消費支出	2.9	3.4	2.5	0.0	1.2	5.1	△ 0.4
国内総固定資本形成	16.0	4.0	3.3	△ 1.4	△ 4.7	△ 11.9	△ 23.3
財貨・サービスの輸出	5.5	0.1	△ 0.1	18.9	△ 13.0	△ 7.1	12.8
財貨・サービスの輸入	11.1	3.4	38.4	△ 13.3	△ 13.3	△ 16.5	△ 0.8

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。政府最終消費支出には国防費等を含まず。民間最終消費支出、政府最終消費支出は季節調整済み。

〔出所〕イスラエル中央統計局(CBS)から作成

表2 イスラエルの主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位:100 万ドル, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2011 年		2012 年			2011 年		2012 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
化学品・同製品	16,598	15,031	23.8	△ 9.4	燃料・潤滑油	13,650	16,090	22.0	17.9
ダイヤモンド(研磨済み)	16,689	14,393	22.8	△ 13.8	機械・電子産業向け原材料	9,192	9,976	13.6	8.5
通信・光学・医療・精密機器	7,940	7,678	12.2	△ 3.3	機械・機器	7,268	6,903	9.4	△ 5.0
電子部品・コンピューター	4,374	4,702	7.4	7.5	化学素材	4,564	5,104	7.0	11.8
機械・機器	3,017	3,333	5.3	10.5	ダイヤモンド(研磨済み)	5,905	4,245	5.8	△ 28.1
ダイヤモンド(未研磨)	3,968	3,079	4.9	△ 22.4	ダイヤモンド(未研磨)	4,868	3,981	5.4	△ 18.2
輸送機器	2,294	2,078	3.3	△ 9.4	輸送機器	3,398	3,546	4.8	4.3
ゴム・プラスチック製品	1,882	1,830	2.9	△ 2.7	家具・家電製品	3,468	2,913	4.0	△ 16.0
石油製品	646	1,067	1.7	65.3	ゴム・プラスチック製品	2,390	2,346	3.2	△ 1.9
合計(その他含む)	67,802	63,145	100.0	△ 6.9	合計(その他含む)	73,537	73,121	100.0	△ 0.6

[出所] イスラエル中央統計局(CBS)から作成

などの化学品の輸出が好調だった。また、アジア諸国への輸出は、イスラエルと国交を持たないインドネシア、マレーシアへの超硬工具や半導体の輸出の伸びが寄与し、総額はそれぞれ 13.7%増、6.6%増を記録した。またベトナムへの輸出は半導体、肥料などが好調で、2.2 倍の 7 億 5,280 万ドル。ベトナムからの輸入は携帯電話、電子機器などが伸びており、60.6%増の 2 億 840 万ドルとなったが、他のアジア諸国からの輸入は大きく伸びていない。

官民一体となったアジア諸国との関係強化が重視され、2012 年 10 月に産業貿易労働省が、上海およびホーチミンにイスラエル企業を支援するビジネスサポートセンターをそれぞれ設立したほか、同年 2 月から 11 月にかけて、アジア 10 カ国と官民ミッションの相互派遣を行った。今後もアジア諸国との経済交流を強化するものと予想される。

■ 対内直接投資は減少するも、100 億ドルを超える

国連貿易開発会議(UNCTAD)によると、2012 年のイスラエルの対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比 6.0%減の 104 億 1,400 万ドルと減少したが、2 年連続で 100 億ドルを超えた。また同年末の投資残高は 759 億 4,400 万ドルだった。一方、2012 年のイスラエルの対外直接投資(同)は 4.0%減の 31 億 7,800 万ドル、同年末の投資残高は 747 億 4,600 万ドルだった。

また 2012 年のイスラエルの対内クロスボーダーM&A 件数は、52 件だった(トムソン・ロイター)。国別では、米国が 31 件と過半を占めた。産業別では、パッケージ・ソフトウェア

ア・サービス業が 8 件、外科、医療用機器器具製造業が 4 件などだった。対外クロスボーダーM&A 件数は 39 件で、国別では、米国が 15 件、オランダが 4 件、産業別では、パッケージ・ソフトウェア・サービス業が 6 件、建物管理業(住居用建物を除く)が 4 件などだった。

■ 円安傾向による対日輸入増加への期待

2012 年の対日輸出は 7.5%減の 8 億 3,330 万ドルだった。化学品・同製品は 49.3%増(構成比 25.3%)で、その内訳では経皮吸収型医薬品が前年比約 2.7 倍だったほか、フェノールまたはフェノールアルコールのハロゲン化誘導体等が 6.4 倍となったことが寄与した。機械・電気機器類(23.4%)、光学・医療機器(20.8%)などは減少した。

2012 年の対日輸入は 28.2%減の 17 億 2,380 万ドルだった。品目別では機械・電気機器類(構成比 42.8%)が 7 億 3,830 万ドルと 32.1%減だった。これは、前述のインテル向けの機器納品が一段落したことが背景にある。また、輸送機器(31.7%)は 35.7%減の 5 億 4,620 万ドルとなった。輸送機器のうち乗用車を見ると、2011 年に続き 2012 年も日本車は苦戦を強いられた。2010 年まで 15 年にわたり新車販売台数のトップだった日系メーカーは、イスラエルに輸出する主力モデルを日本で生産しているため、近年続いた円高が販売低迷の一因となり、韓国メーカーが首位となった 2011 年以来、シェアが低下している。しかし、2012 年 11 月半ば以降から円安傾向となったことから、今後日本車の巻き返しが期待される。

表3 イスラエルの対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位:100 万ドル, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2011 年		2012 年			2011 年		2012 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
化学品・同製品	141	211	25.3	49.3	機械・電気機器類	1,087	738	42.8	△ 32.1
機械・電気機器類	212	195	23.4	△ 8.0	輸送機器	850	546	31.7	△ 35.7
光学・医療機器	261	173	20.8	△ 33.6	化学品・同製品	133	139	8.1	4.7
卑金属	78	71	8.5	△ 8.7	ゴム・プラスチック製品	113	112	6.5	△ 1.1
宝石・貴金属	61	58	7.0	△ 4.1	光学・医療機器	104	89	5.2	△ 14.2
合計(その他含む)	901	833	100.0	△ 7.5	合計(その他含む)	2,402	1,724	100.0	△ 28.2

[出所] イスラエル中央統計局(CBS)から作成